

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	科学的思考の基盤	対象学年	1 年	授業時間数	30時間 (15回)
科 目 名	ロジカルシンキング	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	園田浩之	実務経験と その関連資格	大学講師として社会学の教育と研究に従事		
《科目全体のねらい・到達目標》 論理は、「書くこと」「読むこと」、そして「話すこと」「聞くこと」を意味のあるものにしてくれる基礎（支えとなるもの）です。それはまた、自分と他者（自分でないもの）をつなぐために不可欠なものでもあります。この講義は、そうした「論理の力」を皆さんひとりひとりが自分の味方にする（身につけ、使えるようになる）ことを目的としています。 ①言葉に対する感度の向上：意見や考えを適切に「伝える」「受け取る」力を養うことができる（これは、他者と向き合うさいの感受性をより繊細なものにすることにもつながります）。 ②分析力の向上：ふだん何気なくやり過ごしていること（とくに言葉のやりとりに関すること）の前で立ち止まり、そこにある複雑さ・微妙さについて、ふだんよりも高い解像度で理解することができる。 ③問題発見・問題解決能力の向上：論理的に「読み」「書き」する力を養うことで、それをさまざまな問題の発見と解決に活かすことができる。					
《事前学習内容》 講義ごとに、その回の配布資料やノート・メモをていねいに読み直し、内容をふりかえること（課題のあるなしにかかわらず）。それが、次の講義へのもっとも有効な事前学習にもなります。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的な学び続け、看護の質の向上をはかることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	イントロダクション：この講義への招待と導入			講義	
第2回	そもそもの話：論理ってなに？ なぜ論理？／論理の一手手前から／論理的で「ない」ものとはなにか？			講義	
第3回	はじめの一步：言葉のつながりに目をこらす（耳をすます）			講義	
第4回	つながりを理解する／つながりで理解する：接続表現がひらく世界①			講義	
第5回	つなげることで生まれるもの：接続表現がひらく世界②			講義	
第6回	つなげることのレッスン			講義	
第7回	論理のかたち：論証（reasoning）ってなに？			講義	
第8回	論理のかたちをつかまえる①：なぜそういえるのか？／キズのある論証			講義	
第9回	論理のかたちをつかまえる②：要約してみよう（でも、「なに」を「どうしたら」いいか？）			講義	
第10回	論理的に書き・読むために①：論証の単位／パラグラフとはなにか？			講義	
第11回	論理的に書き・読むために②：パラグラフ・ライティングのすすめ			講義	
第12回	論理的に書き・読むために③：書くことと読むこと（話すことと聞くこと）			講義	
第13回	コミュニケーションとしての論理①：問いかける・答える（応える）・反論する			講義	
第14回	コミュニケーションとしての論理②：論理は「あいだ」に生まれる／モノローグ（独り言）を抜け出そう			講義	
第15回	論理を味方にする：「みんな一緒」と「人それぞれ」を超えて			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験またはレポート80%、講義への参加状況（講義中のやりとりや課題など）20%					
《受講上の注意》 基本的には講義の形で進めていきますが、その中で、実際に書いたり・読んだりすることがあります。その経験（「やってみること」の積み重ね）を大切にもらえたらと思います。					

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書（テキスト）はありません。こちらで資料（スライド・配布資料）を準備して、それを使いながら講義を進めていきます。

（参考図書） 福澤一吉『看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル』、医学書院、2018年
その他、講義の進行に応じて、さらに知りたい・考えてみたいという人たちの手がかりになるものを紹介していけたらと思います。

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	科学的思考の基盤	対象学年	1 年	授業時間数	30時間 (15回)
科 目 名	情報科学（看護統計学）	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	福島 武	実務経験と その関連資格	大牟田高校 教諭 高等学校教諭一種免許 情報		
《科目全体のねらい・到達目標》 コンピュータの操作の習熟を図り、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができる。 また、情報処理スキルの向上や情報倫理、情報リテラシーなどを理解できる。 ①医療の情報化の基本的な概念を理解することができる。 ②文書を作成する際にソフトや文書の特性を考慮して創意工夫を行う。 ③簡単な統計計算とそれに関わる関数を使って、グラフなどを作成することができる。					
《事前学習内容》 現在のネット社会のあり方を自らの視点で考える。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第 1 回	情報化による医療の変化(情報の定義と特徴) 医療とコンピュータ・情報と情報処理 コンピュータの概要・しくみ・ネットワーク			講義	
第 2 回	ICT講義の意義を理解し、windows操作とタイピングの基礎を身につける コンピューターリテラシーとセキュリティ			講義	
第 3 回	インターネットの情報を理解し、かつ安全にルールに従った インターネットの利用ができる。			講義	
第 4 回	Word、 Excelの基本を学び必要な操作ができる			講義	
第 5 回	表計算ソフトウェアの操作・グラフの作成			講義	
第 6 回	表計算ソフトウェアの操作・グラフの作成			講義	
第 7 回	統計処理の概要（確率・誤差・データの種類）			講義	
第 8 回	記述統計（平均値・中央値・分散・標準偏差）			演習	
第 9 回	記述統計（正規分布）			演習	
第10回	Excelによる基本統計解析			演習	
第11回	SPSSによる基本統計解析			演習	
第12回	仮説検定			講義	
第13回	仮説検定			講義	
第14回	仮説検定、まとめ			講義	
第15回	警察の講義(ネット犯罪について)			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 自宅にインターネットにつながったPCがあれば、自習ができます。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 別巻 看護情報学 医学書院 基礎分野 統計学 医学書院 医療・看護系のための情報リテラシー					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	医療倫理	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤丸 由美子	実務経験と その関連資格	白川病院 看護部長		
《科目全体のねらい・到達目標》 人間の生命を広い視点でとらえ、医療における責任と倫理的態度を身につける。 人間観、人生観、死生観についての考え方を豊かにし、生命に携わる援助者としての在り方を考察する。 ①看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。 ②自分の意見に根拠をもち発言する訓練と分析能力を身につける。					
《事前学習内容》 ボランティア・病気体験とその生き様、臨床倫理的問題から、人を支えることや社会のあり方を考える。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	看護倫理をまなぶために 生命倫理－倫理学の基本的な考え方－			講義	
第2回	ナラティブとは－倫理問題－			講義	
第3回 第4回	生命倫理とはなにか 生命倫理の理論－生命倫理の4原則－			講義	
第5回	インフォームドコンセントとは－看護者の責務－			講義	
第6回	性と生殖の生命倫理			講義	
第7回	死の生命倫理			講義	
第8回	先端医療と制度をめぐる生命倫理			講義	
第9回	看護倫理－専門職の倫理－			講義	
第10回	倫理的問題へのアプローチ			講義	
第11回	症例検討ディベート－文献検索と資料作成－			講義	
第12回	症例検討ディベート－文献検索と資料作成－			講義	
第13回	看護研究の倫理			講義	
第14回	事例分析			講義	
第15回	まとめ			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	人間関係論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	森田 智	実務経験と その関連資格	大牟田保養院 臨床心理士		
《科目全体のねらい・到達目標》 自分自身を客観的に観察し、心理テクニックを用いて人間関係をスムーズに構築するスキルを身につける。 ①人格形成のためのパラダイムシフトの利用ができる。 ②患者の価値観やニーズを理解し尊重できる。					
《事前学習内容》 自分の興味のある内容についての書物を講師に質問して、図書館等で調べること。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	人間関係基礎論（自己と他者理解）			講義・演習	
第2回	人間の人と接する距離とその認識について修得			講義・演習	
第3回	態度と対人行動、集団と個人			講義・演習	
第4回	人間関係をつくる理論と技法			講義・演習	
第5回	カウンセリングと心理療法			講義・演習	
第6回	コーチングとアサーティブコミュニケーション			講義・演習	
第7回	保健医療における人間関係			講義・演習	
第8回	医療チームと患者を支える人間関係			講義・演習	
第9回	家族を含めた人間関係			講義・演習	
第10回	地域をつくる人間関係			講義・演習	
第11回	人間の愛についてその種類を学習			講義・演習	
第12回	DVとストーカーの心理分析			講義・演習	
第13回	人間の死についてその死後の概念			講義・演習	
第14回	事例から考察する			講義・演習	
第15回	まとめ			講義・演習	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 猿にそだてられた子 ゲゼル, A 著					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	社会学	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	園田 浩之	実務経験と その関連資格	大学講師として社会学の教育と研究に従事		
《科目全体のねらい・到達目標》 社会学は、「いま・ここ・じぶん」を外から一ふだんとは違った視点で一眺めるための学問です。身のまわりの世界をたんに「あたりまえにみる」のではなく、その「あたりまえの成り立ち」にさかのぼって理解すること。それが社会学の特徴です。この講義は、皆さんに「社会的なもの見方」にふれてもらうことをつうじて、自分自身を含む「社会の中の人間」を、複眼的に、そして柔軟な発想で、理解できるようになることを目的としています。 ①社会的なもの見方を学ぶことを通じて、自己理解と他者理解を深める。 ②「社会的存在としての人間」という視点に立つことで、病気や患者や健康について複眼的に理解することができる。 ③「社会の中の医療」という観点から、医療に関わるさまざまな社会問題をその成り立ちから理解することができる。					
《事前学習内容》 講義ごとに、その回の配布資料やノート・メモをていねいに読み直し、内容をふりかえるようにして下さい。それが、次の講義へのもっとも有効な事前学習にもなります。また、そうしたふりかえりの中で、わからないことや疑問が浮かんだら、その次の回以降（いつでも）、遠慮なく質問してみてください。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的な学び続け、看護の質の向上をはかることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	イントロダクション：社会学への招待／講義の導入			講義	
第2回	社会的存在としての人間：看護と社会学／なぜ社会学？			講義	
第3回	「社会の中の人間」を理解する① 関係の網の目／社会学的想像力			講義	
第4回	「社会の中の人間」を理解する② たとえば、なにが健康・病気を決めるのか？			講義	
第5回	他者理解のための社会学①：他者理解の大切さと難しさ／ステレオタイプ／わかったつもりを超えて			講義	
第6回	他者理解のための社会学②：患者という他者／ケアの現場を社会学する			講義	
第7回	看護のための社会学①：「あたりまえ」の偏りを知るために			講義	
第8回	看護のための社会学②：ヘルスリテラシーと看護・社会学			講義	
第9回	看護のための社会学③：ズレから考える／患者-医療者の「あいだ」／疾患（disease）と病い（illness）			講義	
第10回	社会的現実の成り立ち①：言葉がつくる現実／予言の自己成就と社会問題			講義	
第11回	社会的現実の成り立ち②：医療と「意図せざる結果」			講義	
第12回	社会の中の医療①：医療と社会問題 社会的入院と脱施設化			講義	
第13回	社会の中の医療②：医療とその「外」／アウトリーチがひらく現実／地域・家族と医療			講義	
第14回	社会の中の医療③：変容する社会と医療・看護／変わりゆくあたりまえ			講義	
第15回	社会学の使いみち			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験90% 講義への参加（講義中のやりとりやコメントペーパーの提出など）10%					
《受講上の注意》 私たちの生きている現実とは複雑な多面体です。「わかったつもり」を抜け出すために、「わからなさ」も切り捨てずに大切にして下さい。その「わからなさ」をより深い「わかる」に育てていくつもりで、毎回の講義に参加してもらえたらと思います。そのためにも、何か質問ができるくらいに注意深く話を聞いて下さい。					

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書（テキスト）はありません。こちらで資料（スライド・配布資料）を準備して、それを使いながら講義を進めていきます。

（参考図書）『系統看護学講座・基礎分野 社会学』、医学書院

その他、講義の進行に応じて、さらに知りたい・考えてみたいという人たちの手がかりになるものを紹介していけたらと思います。

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	健康論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	上田 智之 武田 智佳子 山田 聖子 山田 拓治 富山 博史	実務経験と その関連資格	九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科 精神看護学 博士（医学）、准教授 他 緑保育園 施設長 茶道裏千家 教授 AEAJアロマセラピスト他 健康運動療法士 コーヒー		
《科目全体のねらい・到達目標》 学生自身の健康向上を目指すと同時に、講義を通して知見を深め、心身共に健康を求めていくことを目的とする。 ①自分自身の健康について考えることができる。 ②健康促進する要素について学習できる。 ③健康の意義や生活との関連について理解できる。					
《事前学習内容》 学生自身の健康管理の方法や自主的な運動や心身の健康に心がけた生活の実践ができる。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	健康の概念・健康観について			講義・演習	
第2回	Wellness Recovery Action Plan ーキーコンセプト			講義・演習	
第3回	Wellness Recovery Action Plan			講義・演習	
第4回	認知行動療法を活用したストレスマネジメントー認知理論			講義・演習	
第5回	認知行動療法を活用したストレスマネジメントー行動理論			講義・演習	
第6回	健康づくりーお茶と健康ー			演習	
第7回	健康づくりーお茶と健康ー			演習	
第8回	健康ー地域まちづくりと珈琲ー			講義・演習	
第9回	健康ー地域まちづくりと珈琲ー			講義・演習	
第10回	アロマで健康づくりー香り体験			講義・演習	
第11回	アロマで健康づくりーアロマ石鹸づくり			講義・演習	
第12回	アロマで健康づくりー香りが及ぼす心身への影響			講義	
第13回	アロマで健康づくりー香りでセルフコントロール			講義	
第14回	健康維持・増進			講義	
第15回	健康維持・増進			講義	
《成績評価の方法と基準》 授業の終わりにその授業の理解度を問うレポート課題評価を含む。					
《受験上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学 I	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	1) 行平 崇 2) 上瀧 健二	実務経験と その関連資格	1) 帝京大学福岡医療技術学部 修士（保健学）講師 理学療法士 2) 帝京大学福岡医療技術学部理学療法学科 講師 理学療法士（医学博士）		
《科目全体のねらい・到達目標》 人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命・生活になぜ必要なのかについて理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、人体の構造と機能を正しく予習を進める。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	総論、運動方向、筋			講義	
第2回	ニューロン、シナプス			講義	
第3回	イオンチャネル、受容体			講義	
第4回	心臓			講義	
第5回	血液循環			講義	
第6回	血液成分			講義	
第7回	ホルモン① 脳下垂体～甲状腺			講義	
第8回	ホルモン② 甲状腺～			講義	
第9回	中間試験			講義	
第10回	消化と吸収① 口腔			講義	
第11回	自律神経			講義	
第12回	消化と吸収② 嚥下			講義	
第13回	呼吸			講義	
第14回	腎臓			講義	
第15回	酸-塩基平衡			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 医学書院 解いてわかる解剖生理学問題集 元・常葉大学教授 竹内修二著					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	上田 智之	実務経験と その関連資格	看護師・保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》 解剖生理学Ⅰを基盤とし、人体の構造・機能について日常生活行動の視点から理解する ①生きていることを支える日常生活行動を知る。 ②各日常生活行動の最も一般的な型について、からだの仕組みを説明できる。					
《事前学習内容》 実習事前学習 （1年次：解剖生理学 2年次：疾患 3年次：看護）					
《D P との関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.6 探求心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び 備考
第1回	脳の構造と機能(脳神経の構造)			講義	スライド
第2回	脳の構造と機能（間脳・脳幹・小脳の構造と機能）			講義	スライド
第3回	脳の機能と構造（認知機能と神経基盤）			講義	スライド
第4回	恒常性維持のための調節機構①			講義	スライド
第5回	恒常性維持のための調節機構②			講義	スライド
第6回	正常に呼吸をする			講義	スライド
第7回	適切に飲食する			講義	スライド
第8回	あらゆる排泄経路から排泄する			講義	スライド
第9回	身体の位置を動かし、またよい姿勢を保持する			講義	スライド
第10回	睡眠と休息をとる			講義	スライド
第11回	身体を清潔に保ち、身だしなみを整え皮膚を保護する			講義	スライド
第12回	自分の感情、欲求、恐怖あるいは「気分」を表現して、他者とコミュニケーションをもつ			講義	スライド
第13回	課題学習			演習	
第14回	課題学習			演習	
第15回	課題学習			演習	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーベルヒロカワ 看護 形態機能学ワークブック NEW 体験して考える からだのいとなみ 日本看護協会出版会					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学Ⅲ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	木村 涼平	実務経験と その関連資格	看護師・保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》 解剖生理学Ⅰを基盤とし、人体の構造・機能について理解したことを説明できる。 解剖プロジェクト:グループの一メンバーとしての役割を果たす。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、人体の構造と機能を正しく予習を進める。					
《D P との関連》 DP4. 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践 することができる。 DP6. 探求心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	解剖見学			実技	
第2回	筋骨格系（骨格）			講義	
第3回	脳神経系			講義	
第4回	循環器系（心臓）			講義	
第5回	循環器系（血管系）			講義	
第6回	呼吸器系（気管・気管支・肺胞）			講義	
第7回	呼吸器系（呼吸運動）			講義	
第8回	消化器系（消化管）			講義	
第9回	消化器系（付属器官）			講義	
第10回	代謝・内分泌系			講義	
第11回	腎泌尿器系			講義	
第12回	生殖器系			講義	
第13回	感覚器系			講義	
第14回	協働学習GW			演習	
第15回	発表・まとめ			演習	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名	栄養と代謝 （生化学を包括する）	学 期	前期・後期	授業単位数	1 単位 （生化学を含む）
担 当 教 員	1)内村 律子 2)小林 正幸	実務経験と その関連資格	1)大牟田天領病院 管理栄養士 2)有明工業高等専門学校 創造工学科 教授		
《科目全体のねらい・到達目標》 人間にとっての栄養の意義、生きるという事、健康との関わりを理解する。 生命を育てていくのに必要な要素を正しく、過不足のない取り方を理解、実践する知識を身につける。 生体構成成分である物質の生体内での作用について学び、人の代謝について理解する。					
《事前学習内容》 健康や栄養状態を考え、保健や医療とつないで考えることができる。 患者のからだを構成している物質の変化を理解できるように予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第 1 回	第 1 章 人間栄養学と看護、看護と栄養 栄養サポートチーム			講義	
第 2 回	第 2 章 栄養素の種類とはたらき 第 3 章 食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義	
第 3 回	第 4 章 エネルギー代謝 第 5 章 食事と食品			講義	
第 4 回	第 6 章 栄養ケア・マネジメント 第 7 章 栄養状態の評価			講義	
第 5 回	第 8 章 栄養状態の評価・判定 第 9 章 臨床栄養			講義	
第 6 回	第10章 健康づくりと食生活			講義	
第 7 回	食育について			講義	
第 8 回	食育について			講義	
第 9 回	生化学および代謝の基礎 酵素・補酵素 糖質の構造と機能			講義	
第10回	糖質の代謝			講義	
第11回	脂質の構造と機能 脂質の代謝			講義	
第12回	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝			講義	
第13回	ポルフィリン代謝と遺物代謝 遺伝子と核酸			講義	
第14回	核酸の構造と機能および代謝 遺伝子の複製・修復・組み換え			講義	
第15回	転写 翻訳			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、生化学・栄養学の平均点をもって評価する。					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院 生化学 人体の構造と機能② 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	薬理学	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	畑瀬 圭佐	実務経験とその関連資格	薬剤師		
《科目全体のねらい・到達目標》 薬物の生体への影響を総合的に理解し臨床で有害な薬理作用を早期に発見し、対応できる知識を習得する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、薬理に関する予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	薬理学総論			講義	
第2回	薬理学の基礎知識			講義	
第3回	抗感染薬			講義	
第4回	抗がん剤			講義	
第5回	免疫治療薬			講義	
第6回	抗アレルギー薬・抗炎症薬			講義	
第7回	末梢での神経活動に作用する薬物			講義	
第8回	中枢神経系に作用する薬物			講義	
第9回	循環器系に作用する薬物			講義	
第10回	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物			講義	
第11回	物質代謝に作用する薬物、救急の際に使用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬			講義	
第12回	漢方薬 1～12回のまとめ			講義	
第13回	消毒薬、輸液製剤、輸血剤 医療用麻薬 看護業務に必要な薬の管理について			演習	
第14回	与薬の技術(経口、経皮、投与、外用薬)			演習	
第15回	特別講義（警察）薬物乱用(覚せい剤について)			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進③ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	16 時間（8回）
科 目 名	病因論 微生物	学 期	前期	授業単位数	1単位 (病理学を含む)
担 当 教 員	大隈 光信	実務経験とその関連資格	臨床検査技師		
《科目全体のねらい・到達目標》 患者に起こっている病理的状态の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第 1 回	・ 話題の感染症について			講義	スライド
第 2 回	・ 院内感染 ・ 細菌の性質			講義	スライド
第 3 回	・ 感染症の現状と対策 ・ 感染経路と滅菌・消毒			講義	スライド
第 4 回	・ 感染に対する生体防御機構			講義	スライド
第 5 回	・ 病原細菌と細菌感染症			講義	スライド
第 6 回	・ 病原細菌（2）と病原真菌・原虫類			講義	スライド
第 7 回	・ 病原ウイルスとウイルス感染症（1）			講義	スライド
第 8 回	・ 病原ウイルスとウイルス感染症（2）			講義	スライド
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進④ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年次	授業時間数	14時間 (7回)
科 目 名	病因論 病理学	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (微生物学を含む)
担 当 教 員	島松 一秀	実務経験とその関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 患者に起こっている病理的状态の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って予習を進める。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第 1 回	病理学で学ぶこと 看護と病理学			講義	
第 2 回	細胞・組織の障害と修復 細胞の損傷と適応			講義	
第 3 回	循環障害、炎症 浮腫 充血とうっ血 出血 虚血と梗塞			講義	
第 4 回	免疫、アレルギー、感染症			講義	
第 5 回	代謝障害 糖尿病			講義	
第 6 回	老死と死 先天異常と遺伝子異常			講義	
第 7 回	腫瘍 腫瘍の診断と治療			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	14時間（7 回）
科 目 名	疾病各論Ⅰ （呼吸器・血液系）	学 期	後期	授業単位数	1 単位（内分泌・代謝系他を含む）
担 当 教 員	丸山 正夫	実務経験とその関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 呼吸器・血液系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を 実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第 1 回	呼吸器の構造と機能 症状とその病態生理			講義	教科書
第 2 回	検査と治療・処置 特に検査			講義	教科書
第 3 回	検査と治療・処置 （吸入療法 呼吸リハビリテーションなど）、疾患の理解			講義	教科書
第 4 回	疾患の理解（第 3 回の続き）			講義	教科書
第 5 回	血液の生理と造血のしくみ、症状とその病態生理			講義	教科書
第 6 回	検査と治療（化学療法や支持療法） 疾患の理解			講義	教科書
第 7 回	疾患の理解（第6回の続き）			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 呼吸器 成人看護学② 医学書院 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	16時間（8 回）
科 目 名	疾病各論Ⅰ (内分泌・代謝系他)	学 期	後期	授業単位数	1 単位(呼吸・血液系を含む)
担 当 教 員	名取 省一 若松 謙太郎	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 内分泌・代謝系の疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践 することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第 1 回	内分泌各論			講義	
第 2 回	内分泌・代謝器官の構造と機能 内分泌器官とホルモンの機能 代謝の概要と機能			講義	
第 3 回	症状とその病態生理			講義	
第 4 回	検査 内分泌疾患の検査・代謝疾患の検査 疾患の理解 内分泌疾患 代謝疾患			講義	
第 5 回	まとめ（動画視聴・国試対策）			DVD視聴	
第 6 回	アレルギー 免疫のしくみとアレルギー			講義	スライド
第 7 回	アレルギー 膠原病 診断・検査と治療			講義	スライド
第 8 回	アレルギー 膠原病 症状と疾患の理解			講義	スライド
《成績評価の方法と基準》 終講試験 名取講師60点、若松講師40点 合計100点満点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	10時間（5 回）
科 目 名	疾病各論Ⅱ （腎・泌尿器系）	学 期	後期	授業単位数	1 単位 （消化器系を含む）
担 当 教 員	大西 聡	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 腎 ・ 泌尿器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って予習をすすめる					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践 することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び 備考
第 1 回	腎泌尿器の構造と機能 尿管の構造と機能 膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 男性生殖器の構造と機能			講義	
第 2 回	症状と病態生理 尿の異常 排尿に関連した症状 浮腫 脱水 循環器系の異常 血液の異常 尿毒症 疼痛 腫脹・腫瘍			講義	
第 3 回	検査と治療 診察 検査 治療と処置 透析療法			講義	
第 4 回	疾患の理解			講義	
第 5 回	まとめ			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	20時間（10回）
科 目 名	疾病各論Ⅱ（消化器系）	学 期	後期	授業単位数	1 単位(腎・泌尿器系を含む)
担 当 教 員	坂田 研二 福森 一太	実務経験とその関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 消化器系の疾患に関して病態・治療・検査予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				方法 使用機材及び備考
第1回	消化器の構造と機能 食道 胃 十二指腸 小腸 大腸 直腸 肛門				講義 スライド
第2回	消化器の構造と機能 肝臓 胆道系 膵臓				講義 スライド
第3回	症状とその病態生理（1） A 嚥下困難 ～ F 下痢				講義 スライド
第4回	症状とその病態生理（2） G 便秘 ～ L 意識障害				講義 スライド
第5回	検査と治療（1）				講義 スライド
第6回	検査と治療（2）				講義 スライド
第7回	疾患の理解（1） 食道疾患 胃十二指腸疾患				講義 スライド
第8回	疾患の理解（2） 腸、腹膜疾患 肛門疾患				講義 スライド
第9回	疾患の理解（3） 肝臓・胆嚢の疾患				講義 スライド
第10回	疾患の理解（4） 膵疾患 急性腹症 腹部外傷 寄生虫疾患				講義 スライド
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 消化器 成人看護学⑤ 医学書院					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間 (15回)
科 目 名	看護学概論 (国際看護、看護管理含む)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	1) 小塩 美枝子 2) 日高 陵好 3) 雪野 美和	実務経験と その関連資格	1) 看護師 2) 助産師 3) 看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。 看護の機能と役割の重要性を認識し、基本となる姿勢や考え方を学ぶ。 国際社会における保健医療福祉の実績を知り、国際協力について考えることができる。 看護管理についての基礎的知識を修得できる。					
《事前学習内容》 「看護覚え書」を読み、ナイチンゲールの説いた「人間」「健康」「看護」とは何かを事前学習し講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	看護概論 1. 看護の基本的概念 (人間・環境・健康・看護) 看護サービス提供の場			講義	
第2回	2. 看護の対象の理解 人間の「こころ」「からだ」「暮らし」			講義	
第3回	3. 国民の健康状態と生活 健康の捉え方 健康関連行動			講義	
第4回 第5回	4. 看護の役割と機能 看護理論の活用 (セルフケア理論を例に) 各理論家の看護ケア、ケアリングの定義 (ナイチンゲール他)			講義	
第6回	5. 看護の提供者 看護職の資格・養成制度 養成制度の課題			講義	
第7回	6. 看護における倫理			講義	
第8回 第9回	国際看護 1) 看護の国際協力 2) 国際看護の展開の実際 3) 在日外国人への看護			講義	
第10回	看護管理 マネジメントに必要な知識と技術 PDCAサイクル リーダーシップ論			講義	
第11回 第12回	看護単位と機能の特徴 看護ケア提供システム 看護サービスのマネジメントの対象と範囲 (人材・施設設備・物品・情報) リスクマネジメント (安全対策、医療事故対策) チーム医療 サービスの評価			講義	
第13回	日常業務のマネジメント 1日の業務の組み立て方 優先順位と多重課題 重症度と緊急度 タイムマネジメント			講義	
第14回	看護職のキャリア形成 看護職の技能習得段階・臨床実践能力の向上			講義	
第15回	先輩の看護に学ぶ 看護科3年生ケーススタディ発表参加			講義	
《成績評価の方法と基準》 看護概論 (7回) 50点 国際看護 (2回) 15点 看護管理 (5回) 30点 ケーススタディ聴講 (1回) 5点 受講態度・出席状況・提出物を含む					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 2、医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 3、医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 4、医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅰ (共通技術)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	坂口 実枝子 上門 仁美	実務経験と その関連資格	感染管理認定看護師 看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 基本的な看護技術の土台となる技術について習得することができる。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	看護技術を適切に実践するための要素			講義	スライド
第2回	「コミュニケーション技術」 効果的なコミュニケーションの実際			講義	スライド
第3回	[安全確保の技術] 事故防止の基礎知識 誤薬・チューブ類の事故・患者誤認・転倒転落 薬剤・放射線暴露			講義	スライド
第4回	「看護過程の基礎知識」 5つの構成要素・問題解決思考・クリティカルシンキング・リフレクション			講義	スライド
第5回	「看護過程の基礎知識」 アセスメント・看護問題の抽出			講義	スライド
第6回	「看護過程の基礎知識」 計画・実践・評価			講義	スライド
第7回	「看護記録」 法的な位置づけ・構成・目的・機能・留意点			講義	スライド
第8回	「看護研究」 目的・意義・種類 研究の問い（リサーチクエスト）とは			講義	スライド
第9回	「看護研究」 文献検索・文献クリティークの基礎			講義	スライド
第10回	「看護研究」 研究計画書の書き方			講義	スライド
第11回	「感染予防の技術」 標準予防策（スタンダードプリコーション） 感染経路別予防策・洗浄・滅菌・無菌操作			講義	スライド
第12回	「感染予防の技術」 針刺し防止策・事故後の対応 医療施設における感染管理			講義	スライド
第13回	「感染予防の技術」 必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等） 感染性廃棄物の取扱い			講義・演習	スライド
第14回	「学習支援」 看護における学習支援の基本的な考え方			講義	スライド
第15回	「学習支援」 演習：学習支援			演習	スライド
《成績評価の方法と基準》 成績評価 終講試験 100点（技術試験 提出物を含む） 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 3、医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 4、学研 疾患別看護過程の展開 第6版 5、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学①看護学概論					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅱ (ヘルスアセスメント他)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤崎智文 上門仁美	実務経験と その関連資格	集中ケア認定看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 スクリーニングとフィジカルイグザミネーションによる情報を統合し、患者の身体状況と持っている力を 確認・判断する技術を習得する。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することが できる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができ る。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント			講義	スライド
第2回	問診・視診・触診・聴診・打診の技術			演習	スライド
第3回	バイタルサインのアセスメント 体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル			演習	スライド
第4回	バイタルサイン：体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル 身体計測 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲（尿検査を含む）			演習	
第5回	1）ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2）呼吸器系のフィジカルアセスメント			講義	スライド
第6回	3）循環器系のフィジカルアセスメント			講義	スライド
第7回	4）乳房・腋窩系のフィジカルアセスメント 5）腹部のフィジカルアセスメント			講義	スライド
第8回	6）筋・骨格筋系のフィジカルアセスメント 7）神経系のフィジカルアセスメント			講義	スライド
第9回	8）頭頸部と感覚器系のフィジカルアセスメント 9）外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント			講義	スライド
第10回	心理・社会状態のアセスメント			講義	スライド
第11回	循環、呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護			講義	スライド
第12回	栄養・代謝・排泄に関連する症状を示す対象者への看護 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 活動や休息・コーピングに関連する症状を示す対象者への看護			講義	スライド
第13回	治療処置を受ける対象者への看護 手術療法を受ける対象者への看護			講義	スライド
第14回	症状からの病態アセスメントと看護 医療機器の原理と実際			講義	スライド
第15回	臨床判断：タナーの臨床判断モデル 気づく・解釈する・反応する・省察する			演習	スライド
《成績評価の方法と基準》 成績評価 終講試験 100点（技術試験 提出物を含む） 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 2、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論 3、メヂカルフレンド社 初めてのフィジカルアセスメント					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅲ (日常生活援助技術)	学 期	前期～後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	大町福美	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 日常生活行動援助技術について学習する。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践 することができる。 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践すること ができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することが できる。 DP. 6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	「活動・休息援助技術」 良い姿勢・ボディメカニクス・体位			講義	資料、スライド
第2回	「活動・休息援助技術」 体位変換・保持 歩行介助 移乗・移送（車いす・ストレッチャー）			講義	資料、スライド
第3回	「環境調整の援助技術」 ベッド周囲の環境整備・ベッドメイキング 「病床での衣生活の援助」 衣類の選び方・病衣寝衣交換			講義(演習)	資料、スライド
第4回	「環境調整の援助技術」 臥床患者のリネン交換 「病床での衣生活の援助」 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝 衣交換			講義(演習)	資料、スライド
第5回	「睡眠・休息の援助」 リラクゼーション、入眠を促す援助他 「苦痛の緩和の援助技術」 安楽な体位/ポジショニング・温電法・冷電 法			講義(演習)	資料、スライド
第6回 第7回	<事例による演習> 環境調整の援助技術 病床での衣生活の援助 活動・休息の援助技術 苦痛の緩和の援助技術			講義(演習)	資料、スライド
第8回 第9回	「食事の援助技術」 食事の意義・栄養評価・食事の介助・摂食嚥下訓練 非経口的栄養摂取 経管栄養法・中心静脈栄養法			講義(演習)	資料、スライド
第10回	「排泄の援助技術」 排泄介助（トイレ・床上）・おむつによる排泄援 助 排便・排尿のアセスメント			講義(演習)	資料、スライド
第11回	「排泄の援助技術」 導尿（一時的・持続的） 排便を促す援助（浣腸・摘便を含む） ストーマケア			講義(演習)	資料、スライド
第12回	「清潔の援助技術」 清潔の意義・入浴・シャワー浴・全身清拭			講義(演習)	資料、スライド
第13回	「清潔の援助技術」 洗髪・手浴・足浴・フットケア・陰部洗浄 整容（爪切りを含む）・口腔ケア			講義(演習)	資料、スライド
第14回 第15回	<事例による演習> 食事の援助技術（経管栄養を含む） 排泄の援助技術 清潔の援助技術（衣生活を含む）			講義(演習)	資料、スライド
《成績評価の方法と基準》 成績評価 終講試験 100点（技術試験 提出物を含む） 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 2、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	成人看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	成人看護学概論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	河 口 喜代美	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
成人期にある対象を理解する。成人期の健康問題の特徴と健康に及ぼす影響を理解し、問題を解決するための基本的知識、及び看護の役割を理解する。					
《事前学習内容》					
生活行動がもたらす健康問題とその予防					
《D P との関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができる。					
DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	発達段階の特徴と発達課題			講義	
第2回	1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2. 生活と健康をまもる保健・医療・福祉システム 3. 大人の学習理論に基づく行動変容・健康行動の促進 ・アンドラゴジー ・トランスセオリアルモデル			講義	
第3回	1. 効果的な看護アプローチのための信頼関係構築 2. 看護におけるマネジメント 3. 看護実践における倫理的判断 4. 意思決定支援			講義	
第4回	1. 健康を増進するヘルスプロモーション 2. 健康をおびやかす要因と看護			講義	
第5回	1. 健康の急激な破綻と回復を促す看護 2. 慢性病との共存を支えるアプローチ			講義	
第6回	1. 障害がある人の生活とリハビリテーション 2. 人生の最期のときを支える看護			講義	
第7回	病とともに生活を営む学習支援 ・エンパワメントーエデュケーション ・セルフマネジメント ・自己効力			講義	
第8回	1. 症状マネジメントにおける看護技術 2. 振り返りとまとめ			講義	
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
専門分野Ⅱ 成人看護学【1】 成人看護学総論					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	成人看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	成人看護学援助論Ⅰ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	柿原 真由美 猿渡 雅之	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開できる総合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》					
各疾患の病態生理・症状・検査・治療について学習する。					
《DPとの関連》					
DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解 するコミュニケーション能力を養う。					
DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び 備考
第1回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	スライド
第2回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	スライド
第3回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	スライド
第4回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	スライド
第5回	アレルギー・膠原病患者の看護			講義	スライド
第6回	呼吸器疾患患者の看護			講義	スライド
第7回	呼吸器疾患患者の看護			講義	スライド
第8回	血液・造血器疾患患者の看護			講義	スライド
第9回	血液・造血器疾患患者の看護			講義	スライド
第10回	内分泌・代謝疾患患者の看護			講義	スライド
第11回	内分泌・代謝疾患患者の看護			講義	スライド
第12回	消化器疾患患者の看護			講義	スライド
第13回	消化器疾患患者の看護			講義	スライド
第14回	消化器疾患患者の看護 ストーマケア			演習	スライド
第15回	消化器疾患患者の看護 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換 ドレーン類の挿入部の処置			演習	
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度 試験配分（柿原先生：50点 猿渡先生：50点）					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
専門分野Ⅱ 成人看護学【2】 呼吸器 成人看護学【4】 血液・造血器 成人看護学【5】 消化器 成人看護学【6】 内分泌・代謝 成人看護学【8】 腎・泌尿器 成人看護学【11】 アレルギー 膠原病 感染症					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	老年看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間（8 回）
科 目 名	老年看護学概論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	河 口 喜代美	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 老年期にある対象の変化を知り、老年のための保健・医療・福祉サービスの課題を理解し、看護の役割を理解する。 ①老年期にある人々の発達課題を説明できる。ライフストーリーを聴き、高齢者の発達課題を理解し看護実践への活用ができる。 ②加齢に関する様々な理論を説明できる。 ③高齢者の生理的老化とメカニズムを説明できる。					
《事前学習内容》 高齢者が生きてきた時代背景や、社会変動（金融恐慌、戦争、戦後の混乱、高度経済成長など）を経験してきている。時代背景を学習しておくこと。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第 1 回	1. 老年看護の基盤 1) 老年看護の役割 2) 老年看護における理論・概論の活用 3) 老年看護に携わる者の責務			講義	
第 2 回	2. 対象の理解 1) 老いるということ 2) 老いを生きるということ 3) 高齢者のヘルスアセスメント（身体に加齢変化）			講義	
第 3 回	2. 対象の理解 4) 加齢に伴う心理、精神的機能の変化 5) 高齢者の性 6) 加齢に伴う社会的機能の変化			講義	
第 4 回	3. 超高齢社会と社会保障 1) 超高齢社会の統計的輪郭 2) 保健福祉の動向			講義	
第 5 回	4. 高齢者と家族 1) 家族の健康と生活 2) 家族への支援			講義	
第 6 回	5. 老年症候群（定義と分類）			講義	
第 7 回	5. 老年症候群 1) 急性・慢性疾患に付随する症候 2) ADL低下に合併する症候			講義	
第 8 回	6. 高齢者の人権と倫理的問題 1) 高齢者虐待 2) 身体拘束 3) 権利擁護のための制度			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験80点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	小児看護学概論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	大町 福美	実務経験と その関連資格	助産師		
《科目全体のねらい・到達目標》 子どもと家族が主体となるケアの理念に基づき一貫して看護の対象となる人々の主観や関係性を共有し尊重することを基本とし、すべての健康レベルの子どもを対象としてその成熟過程を支える看護を学ぶ 小児看護の役割と機能を理解する。					
《事前学習内容》 事前にテキストを読む。 指定された課題学習を行う。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	小児看護の対象, 小児看護の目標, 小児看護の変遷と課題が理解できる。			講義	資料、スライド
第2回	小児看護の場と特徴, 小児看護の諸統計が理解できる。			講義	資料、スライド
第3回	子どもの人権, 小児看護における理論が理解できる。			講義	資料、スライド
第4回	子どもの成長と発達が理解できる。			講義、グループワーク	資料、スライド
第5回	子どもの成長と発達が理解できる。			講義、グループワーク	資料、スライド
第6回	子どもと家族を取り巻く社会が理解できる。			講義	資料、スライド
第7回	子どもの虐待と看護, 子どもの事故が理解できる。			講義	資料、スライド
第8回	家族の特徴とアセスメントが理解できる。			講義	資料、スライド
《成績評価の方法と基準》 筆記試験 80点 課題20点 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 小児看護学概論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学1〕 小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	小児看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	古賀 龍天 松浦 稔展 棚成 嘉文 坂西 信平 中川慎一郎	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康障害をもつ小児各期にある対象の特徴について学び、対象である小児のみならず、周囲の環境と関連させながら理解する。					
《事前学習内容》 事前にテキストを読む。 指定された課題学習を行う。					
《D P との関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第1回	第1章 染色体異常、胎内環境により発症する先天異常と看護			講義	資料
第2回	第2章 新生児の看護が理解できる			講義	教科書
第3回	第3章 代謝性疾患			講義	教科書
第4回	第4章 内分泌疾患と看護			講義	教科書
第5回	第5章 免疫疾患、アレルギー性疾患 リウマチ性疾患と看護			講義	資料
第6回	第6章 感染症と看護			講義	スライド
第7回	第7章 呼吸器疾患と看護			講義	資料
第8回	第8章 循環器疾患と看護			講義	教科書
第9回	第9章 消化器疾患と看護			講義	スライド
第10回	第10章 血液、造血器疾患と看護			講義	教科書
第11回	第11章 悪性新生物と看護			講義	教科書
第12回	第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護			講義	教科書
第13回	第13章 神経疾患と看護 心身症			講義	スライド
第14回	第14章 運動器疾患と看護 第15章 皮膚疾患と看護			講義	資料
第15回	第16章 眼疾患と看護 第17章 耳鼻咽喉疾患と看護 第18章 精神疾患と看護			講義・演習	スライド
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	小児看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	徳満絵理香 住吉陽子	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 小児期の成長発達・健康維持から生じる健康問題に対する看護の具体的方法を学び、小児看護の特徴を踏まえた看護過程を展開し、統合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》 発達段階の理解 疾患に関する知識					
《D P との関連》 DP. 1看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP. 2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができ DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 5保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	第1章 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 第7章 障害のある子どもと家族の看護			講義	
第2回	第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護			講義	
第3回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護			講義	
第4回	第4章 子どものアセスメント			講義・演習	
第5回	第5章 症状を示す子どもの看護①			講義・演習	
第6回	第5章 症状を示す子どもの看護①			講義・演習	
第7回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護①			講義・演習	
第8回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護② 遊びによる医療的説明（プレパレーション、ディストラクション）			講義・演習	
第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	疾患を持った子どもの看護 代謝性疾患、 内分泌疾患、免疫疾患、アレルギー性疾患 リウマチ性疾患, 感染症、呼吸器疾患、循環器疾患 消化器疾患、血液、造血器疾患、悪性新生物、 腎・泌尿器および生殖器疾患、神経疾患、 運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患			講義	
第14回	事例による看護過程の展開			講義・演習	
第15回	事例による看護過程の展開			講義・演習	
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 小児看護学概論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学1〕 小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	母性看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間（8 回）
科 目 名	母性看護学概論	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	大町福美	実務経験と その関連資格	助産師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
①母性看護を実践する上で生命を尊び、必要な諸理論「愛着形成・役割理論・家族の発達・リプロダクティブヘルス/ライツ・Sexuality・母性看護の生命倫理、母性看護の中心概念」について学習し説明できる。					
②人間の生と生殖の意義を理解し、生命の尊厳と生命倫理について考えを深めることができる。					
③母子保健の歴史的変遷・統計・法律について学習し母性保健の課題について考えることができる。					
①②③より母性看護における看護の役割と課題について自分なりの考えをまとめることができる。					
《事前学習内容》					
・教科書の関連領域・資料は事前に読んでおくこと。					
・女性の形態・機能(生殖生理)については理解し覚える。授業時に知識の確認テストをします。					
《D P との関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	母性とは何か:「母性」の概念について 母性看護の中心概念である「女性中心の看護」「家族中心の看護」について			講義	資料、スライド
第2回	母性看護学の基盤となる概念①ヘルスプロモーション②リプロダクティブヘルス/ライツ③母性看護の在り方について学ぶ 母親役割「ルービン」「マーサー」理論 ほか			講義	資料、スライド
第3回	母性を取り巻く社会の変遷と現状:母性看護の歴史的変遷を知る。			講義	資料、スライド
第4回	母子保健統計:母子保健統計を読み、母子保健の現状をイメージし、今後の母性看護の在り方、課題を考える。			講義、グループワーク	資料、スライド
第5回	母性保健の法律:①母子保健法②労働基準法③男女雇用機会均等法④育児・介護休業法⑤母体保護法⑥死産の届け出に関する規定⑦戸籍法 ほか・・講義③④⑤を学び母性看護の課題と求められる取組についてレポート			講義	資料、スライド
第6回	母性看護の対象の特徴を理解する:女性の身体的特徴①解剖学的特徴と生殖生理②生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル			講義	資料、スライド
第7回	人間の性と生殖の意義を理解する:①女性と男性以外の性・性同一性障害(LGBT)・性分化疾患②社会的性同一性(ジェンダー)			講義	資料、スライド
第8回	児童虐待と母子関係の課題:①児童虐待の現状と対応②母子及び父子関係の課題 母性看護学概論のまとめ:①母性看護の役割と課題③倫理的問題			講義、グループワーク	資料、スライド
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論(医学書院)					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	精神看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	精神看護学概論	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤岡 賢至	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
精神看護の基本的概念を理解し、人の健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、方法を学ぶ。 心の発達と健康について学び、精神看護の目的・対象の機能と役割について学ぶ。					
《事前学習内容》					
ライフサイクル、成長発達段階					
《D P との関連》					
DP. 1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる。					
DP. 1 対象の身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する。					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	導入・オリエンテーション 第1章 精神看護学で学ぶこと A. 精神看護とは			講義	教科書
第2回	B. 精神障害を持つ人の病いの体験と精神看護 第1章 精神看護で学ぶこと C. 「心のケア」と日本社会			講義	教科書
第3回	D. 精神看護の課題 2. 精神保健の考え方 A. 精神の健康とは			講義	教科書
第4回	2. 精神保健の考え方 C. 心身の健康に及ぼすストレスの影響 D. 心的外傷と回復			講義	教科書
第5回	D. 精神保健の考え方 第7章 社会の中の精神障害 A. 精神障害の治療と歴史			講義	教科書
第6回	第7章 社会の中の精神障害 B. 日本における精神医学精神保健の流れ C. 精神障害と文化			講義	教科書
第7回	第7章 社会の中の精神障害3. 社会の中の精神障害 A. 精神障害の治療と歴史 E. 精神障害と法制度			講義	教科書
第8回	第7章 社会の中の精神障害3. 社会の中の精神障害 F. 主な精神保健医療福祉対策とその動向 これまでの講義内容の振り返りとまとめ			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	発達心理学	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	新牧 恭太	実務経験と その関連資格	久留米大学大学院、心理学研究科後期博士課程 スクールカウンセラー、臨床心理士		
《科目全体のねらい・到達目標》 人々のこころの健康における、回復・保持・増進を支援するために必要な知識を学習する。 様々な年齢（発達段階）・立場から内面や行動について理解を深める。 ①心理的援助に必要な基礎的理論を理解するとともに、その技法について理解できる。 ②対象者との援助的な関係を形成するのに必要な医療者の態度を養うことができる。 ③こころに何らかの問題を抱えている人への支援方法について理解する。					
《事前学習内容》 学習目標と学習課題を掲げている。試験のための学習に用いること。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容		方法	使用教材及び備考	
第1回	オリエンテーション		講義		
第2回	ストレス		講義		
第3回	感情・知覚・記憶		講義		
第4回	人格心理学		講義		
第5回	発達心理学 1		講義		
第6回	発達心理学 2		講義		
第7回	学習心理学		講義		
第8回	社会心理学		講義		
第9回	アセスメント 1		講義		
第10回	アセスメント 2		講義		
第11回	臨床心理学 1		講義		
第12回	臨床心理学 2		講義		
第13回	医療従事者の心理 1		講義		
第14回	医療従事者の心理 2		講義		
第15回	まとめ		講義		
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点（レポート課題評価を含む。） 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院 よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	英語（英会話）	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	松尾 直子	実務経験とその関連資格	中学校英語教師、教育事務所指導主事、小中学校校長、中・高専修教員免許（英語）		
《科目全体のねらい・到達目標》 聞く、話す、読む、書くの4技能を組み合わせながら、日常及び医療現場で必要な英語でのコミュニケーションの基礎力をつけていく。 ①英会話により基本的なコミュニケーションを行うことができる。 ②英会話により患者に質問や説明を行うことができる。 ③看護の場における必要な英語を記述し、会話できる。					
《事前学習内容》 学習目標と学習課題を掲げている。試験のための学習に用いること。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第1回	オリエンテーション、自己紹介			講義、演習	テキスト
第2回	Unit 1 : Can you speak more slowly.			講義、演習	テキスト
第3回	Unit 2 : Where are you from?			講義、演習	テキスト 会話テスト
第4回	Unit 3 : Could you tell me your address, please?			講義、演習	テキスト
第5回	Unit 4 : What department do you want to visit?			講義、演習	テキスト
第6回	Unit 5 : Where is the X-ray department?			講義、演習	テキスト 会話テスト
第7回	Unit 6 : What are your symptoms?			講義、演習	テキスト
第8回	Review Unit 1-6			演習、テスト	テキスト 小テスト
第9回	Unit 7 : Where does it hurt?			講義、演習	テキスト
第10回	Unit 8 : Have you ever had any serious illness?			講義、演習	テキスト
第11回	Unit 9 : Take one tablet, four times a day.			講義、演習	テキスト 会話テスト
第12回	Unit 10 : Let me make an appointment for your test.			講義、演習	テキスト
第13回	Unit 11 : Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.			講義、演習	テキスト
第14回	Unit 12 : How are you feeling today?			講義、演習	テキスト 会話テスト
第15回	Review Unit 7-12			演習、テスト	テキスト 小テスト
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点（会話テスト、小テストを含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容		疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名		疾病各論Ⅲ 循環器系	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員		紫原 美和子	実務経験とその関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 循環器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。						
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。						
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。						
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考	
第 1 回	①心臓の構造・機能 ②循環器概論			講義	教科書	
第 2 回	症状とその病態生理（1）			講義	教科書	
第 3 回	症状とその病態生理（2） 問診・身体所見のとり方			講義	教科書	
第 4 回	検査（1）			講義	教科書	
第 5 回	検査（1）			講義	教科書	
第 6 回	治療・処置（1）			講義	教科書	
第 7 回	治療・処置（2）			講義	教科書	
第 8 回	虚血性心疾患（1）			講義	教科書	
第 9 回	虚血性心疾患（2）			講義	教科書	
第10回	心不全・血圧			講義	教科書	
第11回	不整脈（1）			講義	教科書	
第12回	不整脈（2）			講義	教科書	
第13回	弁膜症・心膜疾患・心筋疾患			講義	教科書	
第14回	動脈・静脈・リンパ系疾患			講義	教科書	
第15回	先天性心疾患・総括			講義	教科書	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度						
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。						
《使用教材（教科書）及び参考図書》 循環器 成人看護学③ 医学書院						

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年次	授業時間数	14時間(7回)
科 目 名	疾病各論Ⅳ（脳神経）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (疾病各論Ⅳ全てを含む)
担 当 教 員	倉本晃一 江藤朋子 山下伸	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
脳・神経系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》					
教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた 看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	脳・神経系の構造と機能			講義	PC、パワーポイント
第 2 回	脳疾患の症状とその病態生理			講義	テキスト、スライド
第 3 回	検査・診断と治療・処置			講義	テキスト、スライド
第 4 回	脳血管障害、脳腫瘍			授業	スライド
第 5 回	頭部外傷、水頭症、末梢神経障害、感染症			授業	スライド
第 6 回	神経・筋疾患、脱髄・変性疾患、中毒、てんかん、認知症			授業	スライド
第 7 回	まとめ、補足など			授業	スライド
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
脳神経 成人看護学⑦ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（皮膚系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (疾病各論Ⅳ全てを含む)
担 当 教 員	森田寛之	実務経験とその関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第 1 回	症状とその病態生理 発疹 掻痒（かゆみ） 皮膚の老化 検査と治療・処置			講義	教科書
第 2 回	疾患の理解（1） A:表在性皮膚疾患 B:真皮・皮下脂肪識および皮膚附属器の疾患 C:脈管系の異常による皮膚疾患 D:物理・化学的皮膚障害 疾患の理解（2） E:腫瘍及び色素異常症 F:感染症 全身性疾患に伴う皮膚病変			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4科目各25点とし、合計100点とする。 出席状況、 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 皮膚科 成人看護学⑫ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（眼系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (疾病各論Ⅳをすべて含む)
担 当 教 員	諸岡 居織	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》					
教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	教科書とパワーポイントとDVDを教材として疾病の病態・治療等 を理解する			パワーポイント DVD	DVD教材
第 2 回	教科書とパワーポイントとDVDを教材として疾病の病態・治療等 を理解する			パワーポイント DVD	DVD教材
《成績評価の方法と基準》					
終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4科目各25点とし、合計100点とする。					
出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
眼 成人看護学⑬ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと 開腹の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（耳鼻咽喉系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （疾病各論Ⅳ全てを含む）
担 当 教 員	関 正大	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	耳・鼻の構造と疾患に関して			対面	教科書、スライド
第 2 回	頸部・咽頭痛の構造と疾患に関して			対面	教科書、スライド
《成績評価の方法と基準》 終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4 課目各25点とし、合計100点とする。 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（歯・口腔系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （疾病各論Ⅳ全てを含む）
担 当 教 員	阿津坂 崇士	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》					
教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた 看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	・口腔の概様と嚥下までを中心に行う ・口腔→歯→筋肉→骨→嚥下の流れ			パワーポイント 授業	PC
第 2 回	・口腔内でみられる疾病と口腔ケアについて ・う蝕歯周病 ・口腔ガン ・口腔ケア時に歯科に伝えるべき事などを中心に設問			パワーポイント 授業	PC
《成績評価の方法と基準》					
終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4課目各25点とし、合計100点とする。					
出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
歯・口腔 成人看護学⑮ 医学書院					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	14時間(7回)
科 目 名	疾病各論Ⅴ (リハビリテーション論)	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (運動器を含む)
担 当 教 員	関 誠	実務経験と その関連資格	帝京大学理学療法学科 教授		
《科目全体のねらい・到達目標》					
リハビリテーションの意義を理解し、機能障害や能力低下に対応できる訓練や代償方法を学び、リハビリテーション看護の方法論を習得する。					
《事前学習内容》					
教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	リハビリテーション総論 リハビリテーション看護の概要			講義	PC・プロジェクター
第 2 回	リハビリテーション看護の対象 リハビリテーション看護に関連する法制度			講義	PC・プロジェクター
第 3 回	ステージ別 リハビリテーション看護 リハビリテーション看護を展開するための基盤			講義	PC・プロジェクター
第 4 回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護			講義	PC・プロジェクター
第 5 回	これからのリハビリテーション看護			講義	PC・プロジェクター
第 6 回	脊髄損傷のリハビリテーション			講義	PC・プロジェクター
第 7 回	せき損センター見学				
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
リハビリテーション看護 成人看護学⑩ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容		疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	16時間(8回)
科 目 名		疾病各論Ⅴ（運動器系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (リハビリを含む)
担 当 教 員		不動 拓真	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 運動器疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。						
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。						
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。						
授業の 方法	内 容				方法	使用教材 及び備考
第 1 回	運動器の構造と機能 骨 関節 神経と筋肉				講義	教科書
第 2 回	症状とその病態生理 疼痛 形態の異常				講義	教科書
第 3 回	関節運動の異常 神経の異常 跛行 筋肉の障害				講義	教科書
第 4 回	診断・検査と治療・処置 診察・診断の流れ				講義	教科書
第 5 回	検査				講義	教科書
第 6 回	治療・処置 保存療法 理学療法と作業療法				講義	教科書
第 7 回	手術療法 義肢と装具				講義	教科書
第 8 回	疾患の理解				講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度						
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。						
《使用教材（教科書）及び参考図書》 運動器 成人看護学⑩ 医学書院						

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	健康支援と社会保障制度	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	公衆衛生	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	森山 浩司	実務経験と その関連資格	保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》 公衆衛生を学ぶことを通して、個人、集団の健康の保持・増進のための、組織的な保健活動について理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第1回	公衆衛生を学ぶにあたって			講義	教科書
第2回	公衆衛生の活動対象			講義	教科書
第3回	公衆衛生のしくみ：政策展開、国と地方自治体の役割			講義	教科書
第4回	公衆衛生のしくみ：専門職の働き、多職種協働、住民との協働			講義	教科書
第5回	集団の健康を捉えるための手法：疫学とは			講義	教科書
第6回	集団の健康を捉えるための手法：健康指標			講義	教科書
第7回	環境と健康			講義	教科書
第8回	感染症とその予防対策			講義	教科書
第9回	国際保健			講義	教科書
第10回	地域における公衆衛生の実践：母子			講義	教科書
第11回	地域における公衆衛生の実践：成人・高齢			講義	教科書
第12回	地域における公衆衛生の実践：精神・障害者・難病			講義	教科書
第13回	学校と健康			講義	教科書
第14回	職場と健康			講義	教科書
第15回	健康危機管理・災害保健			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点 、 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	健康支援と社会保障制度	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	関係法規	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	山下 一幸	実務経験と その関連資格	大牟田市保健福祉部保護課 主査 社会福祉士、精神保健福祉士		
《科目全体のねらい・到達目標》 看護師国家試験の過去問演習により、『健康支援と社会保障制度』科目における保健医療及び社会保障、社会福祉等に関する制度とそれを規定する法令を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	・授業計画及び科目別出題傾向について ・教科書「第2章 看護法」に関する過去問の回答解説 ・教科書「第5章 薬務法」に関する過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第2回	・教科書「第4章 保健衛生法」に関する過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第3回					
第4回					
第5回					
第6回	・教科書「第6章 社会保険法」に関する過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第7回					
第8回					
第9回	・教科書「第3章 医事法」に関する過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第10回	・教科書「第7章 福祉法」に関する過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第11回	・教科書「第7章 福祉法」に関する過去問の回答解説 ・教科書「第9章 環境法」に関する過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第12回	・教科書「第8章 労働法と社会基盤整備」に関する過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第13回	・看護師国家試験(第109回 午前問題)の過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第14回	・看護師国家試験(第109回 午後問題)の過去問の回答解説			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
第15回	・終講試験について			過去問の回答解説	必要に応じてプロジェクター投影あり
《成績評価の方法と基準》 終講試験、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ・『看護関係法令 健康支援と社会保障制度④』／医学書院 ・『看護師国家試験の過去問』／講師作 ・『看護関係法令 資料集』／講師作					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	健康支援と社会保障制度	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	社会福祉	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	夏目 尚	実務経験と その関連資格	社会福祉士、言語聴覚士		
《科目全体のねらい・到達目標》					
保健医療における福祉の理念・社会福祉制度・社会保障について、社会資源の活用、理解する					
《事前学習内容》					
《D P との関連》					
DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し、多様な場で生活 する人々へ看護を提供することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	社会福祉とは			講義	教科書
第2回	社会保障制度			講義	教科書
第3回	社会福祉の法制度			講義	教科書
第4回	現代社会の変化			講義	教科書
第5回	社会保障・社会福祉の動向			講義	教科書
第6回	医療保険の導入			講義	教科書
第7回	医療保障			講義	教科書
第8回	介護保障（1）			講義	教科書
第9回	介護保障（2）			講義	教科書
第10回	所得保障			講義	教科書
第11回	社会福祉（1） 公的扶助			講義	教科書
第12回	社会福祉（2）			講義	教科書
第13回	社会福祉（3）			講義	教科書
第14回	社会福祉実践と医療・看護			講義	教科書
第15回	社会福祉の歴史			講義・DVD	教科書
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	2 年	授業時間数	20時間(10回)
科 目 名	災害看護	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (クリティカルケアを含む)
担 当 教 員	村上 潤一郎	実務経験と その関連資格	災害派遣医療チーム・救急看護認定看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。 災害時に看護が果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。					
《事前学習内容》 フィジカルアセスメント・心の健康・生活・ライフスタイル・集団・家族					
《D P との関連》 DP. 1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる DP. 2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践できる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	自己紹介、災害への意識調査、質疑応答 CSCATTTの説明			講義	
第 2 回	災害医療、災害看護の基礎知識 災害現場に対するG. W① 災害現場で遭遇する疾患など			講義	
第 3 回					
第 4 回	災害現場に対するG. W② 災害現場で遭遇する疾患への対応 DMAT隊員の活動紹介など			講義	
第 5 回					
第 6 回	トリアージ説明 トリアージ訓練、試験 トランシーバー体験など			演習	
第 7 回					
第 8 回	災害看護の展開 (多数傷病者対応訓練)			演習	
第 9 回					
第10回	地域の防災訓練見学 防災訓練の実際と災害地での看護の役割			大牟田市 防災訓練参加	体操服
《成績評価の方法と基準》 トリアージ演習の評価、多数傷病者対応訓練の演習評価、終講試験による評価の合計点数を100点とする。					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	臨床補助技術における安全	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	山 川 光 子	実務経験と その関連資格	医療安全管理者		
《科目全体のねらい・到達目標》					
医療システムの中の危険要因を知り、診療補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる					
安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる					
《事前学習内容》					
基礎看護学、基礎看護学技術					
《D P との関連》					
DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践できる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	序章 医療安全を学ぶことのたいせつさ			講義	教科書・資料
第2回	第1章 事故防止の考え方を学ぶ A 医療事故と看護業務 B 看護事故の構造			講義	教科書・資料
第3回	第1章 C看護事故防止 事例			講義	教科書・資料
第4回	ヒューマンエラーと事故防止の取り組み 医療事故を起こしてしまったら			講義	教科書・資料
第5回	臨床で起りうる医療事故の事例			講義	教科書・資料
第6回	実習で安全な看護を提供するために (転倒・転落予防、誤嚥予防)			講義	教科書・資料
第7回	看護師に必要となる感染対策の基本的な知識と技術			講義	教科書・資料
第8回	医療安全で知らなければならない知識“医師の指示受け”			講義	教科書・資料
第9回	医療安全で知らなければならない知識“注射薬”			講義	教科書・資料
第10回	医療安全で知らなければならない知識“内服薬” “インスリン”			講義	教科書・資料
第11回	医療安全で知らなければならない知識“カリウム製剤” “輸血”			講義	教科書・資料
第12回	KYT（危険予知トレーニング） インシデント、アクシデント発生時の速やかな報告			講義・演習	資料
第13回	KYT（危険予知トレーニング）、患者の誤認防止策の実施			講義・演習	資料
第14回	安全な療養環境の整備 （転倒、転落、外傷予防）			講義・演習	資料
第15回	臨地実習に向けての医療事故防止と事例の検討 まとめ			講義・演習	資料
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 医療安全 医学書院					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間 (15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅳ (診療の補助技術)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	上門 仁美	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 主要症状の発生メカニズムを理解した上で、治療の基本および援助の方法について学ぶ。 対象の健康障害を理解し、治療関連技術について学習する。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践 することができる。 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践すること ができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができ る。 DP. 6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	単元についての説明 協同学習 ジグソー学習グループ作り、演習内容選択 普通救命講習オリエンテーション、事前学習提示			講義・演習	教科書
第 2 回	教材研究 「排痰ケア」「吸引」「吸入」「酸素吸入」 「人工呼吸器」「胸腔ドレナージ」 「末梢循環促進ケア」「創傷処置、褥瘡予防・ケア」			講義・演習	教科書
第 3 回	教材研究 「排痰ケア」「吸引」「吸入」「酸素吸入」「人工呼吸器」「胸腔ドレ ナージ」「末梢循環促進ケア」 「創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）、褥瘡予防・ケア」			講義・演習	教科書
第 4 回 第 5 回	演習 「排痰ケア」「吸引」「吸入」「酸素吸入」「人工呼吸器」「胸腔ドレ ナージ」「末梢循環促進ケア」 「創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）、褥瘡予防・ケア」			講義・演習	教科書
第 6 回	教材研究 「与薬」「診察・検査・処置の介助技術」「心電図」			講義・演習	教科書
第 7 回	技術確認 「与薬」「診察・検査・処置の介助技術」「心電図」			講義・演習	教科書
第 8 回 第 9 回	演習 「診察・検査・処置の介助技術」 「心電図」			講義・演習	教科書
第10回	死の看取りの援助			講義	教科書
第11回 第12回	救命救急処置技術 緊急時の応援要請 一次救命処置（Basic Life Support：BLS） 止血法の実施			講義・演習	教科書
第13回	与薬の技術 坐薬の投与、皮下注射、筋肉内注射、静脈路確保・点滴静脈内注射 静脈血採血、点滴静脈内注射の管理			講義	教科書
第14回 第15回	与薬の技術 坐薬の投与、皮下注射、筋肉内注射、静脈路確保・点滴静脈内注射 静脈血採血、点滴静脈内注射の管理			演習	教科書

《成績評価の方法と基準》

終講試験80点 授業態度20点、出席状況、受講態度

《受験上の注意》

一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。

《使用教材（教科書）及び参考図書》

1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ

2、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間 (15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅴ (看護過程)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	前田 優子	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 看護の技術を総合して、患者に合った看護過程の展開が理解できる。					
《事前学習内容》					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践する ことができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することが できる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	看護過程の各段階 「アセスメント」 (情報の収集・情報の分析)			講義・演習	教科書 資料
第2回	「アセスメント」 講義・演習：ヘンダーソン14の基本的ニーズに基づく枠組みによる アセスメント (1～7)			講義・演習	教科書 資料
第3回	「アセスメント」 講義・演習：ヘンダーソン14の基本的ニーズに基づく枠組みによる アセスメント (8～14)			講義・演習	教科書 資料
第4回	看護過程の各段階 「アセスメント」「看護問題の明確化 (看護診断)」 講義・演習：全体像の描写・関連図作成			講義・演習	教科書 資料
第5回	看護過程の各段階 「アセスメント」「看護問題の明確化 (看護診断)」 講義・演習：全体像の描写・関連図作成			講義・演習	教科書 資料
第6回	「看護問題の明確化 (看護診断)」 講義・演習：看護問題の優先順位検討・問題リスト作成 共同問題・協働問題			講義・演習	教科書 資料
第7回	看護過程の各段階 「計画」 講義・演習：「期待される成果」を設定			講義・演習	教科書 資料
第8回	看護過程の各段階 「計画」 講義・演習：「看護介入計画」立案			講義・演習	教科書 資料
第9回	看護過程の各段階 「実施」 講義・演習：①当日の援助計画 ②実施後の経過記録：SOAP法)			講義・演習	教科書 資料
第10回	看護過程の各段階 「評価」 講義・演習：紙面上事例による看護過程の展開 (評価)			講義・演習	教科書 資料
第11回	看護過程の展開 (事例)			講義・演習	教科書 資料
第12回	看護過程の展開 (事例)			講義・演習	教科書 資料
第13回	看護過程の展開 (事例)			講義・演習	教科書 資料
第14回	NANDA・NIC・NOCの連動 看護診断ハンドブック ゴードンの枠組みを用いてアセスメントした看護診断のプロセス			講義・演習	教科書 資料

第15回	ケーススタディ聴講		資料
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点、出席状況、受講態度			
《受験上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。			
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1, 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 2, ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 看護計画立案モデル（4）（ヌーベルヒロカワ） 3, 経過が見える疾患別病態関連マップ（2）（学研）			

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	15時間（8 回）
科 目 名	在宅看護概論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	田中千香	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 地域・在宅看護の対象であるその人は、個人として存在するだけでなく、家族や様々なコミュニティの一員であり、地域のシステムの中にある。 ①人口の高齢化の現状と問題、高齢者に関わる保健・医療・福祉の概要を説明できる。 ②老年看護の活動の場と高齢者を介護する家族を知り、看護師の役割を説明できる。 ③老年期の人々が生活する中で体験する倫理問題について考えることができる。					
《事前学習内容》 学生の身近にある人々の暮らしから看護の学びをはじめめる・暮らしの基盤としての地域を理解する。					
《D P との関連》 D P . 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 D P . 2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力 D P . 3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 D P . 5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	人々の暮らしを理解する。訪問看護ステーションスライド			講義	
第2回	グループワーク発表 1 章まとめ			講義	
第3回	2 章：地域を理解する			講義	
第4回	地域を理解するグループワーク 2 章まとめ			講義	
第5回	3 章 地域・在宅看護の対象者を理解する			講義	
第6回	3 章 家族の理解について			講義	
第7回	地域在宅看護の対象についてグループワークまとめ			講義	
第8回	まとめ			講義	
《成績評価の方法と基準》 ※終講試験は授業の終わりにその授業の理解度を問う試験100点（課題、レポート20点分含む） ※ポストテストは5点配点で授業の終わりにその授業の理解度を問う試験 いずれの試験も欠席は0点とする ※VTRの感想などは、指定期日を守り提出したものを評価 ※学習やレポートなどの成果物を課題とする。提出期日を守って提出したものを評価					
《受験上の注意》 わかって、説明できることをめざす授業です。1回1回の授業に真剣に取り組み、 努力して「理解できる」ようになりましょう。 この学習が老年看護学実習の基盤となります。 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 医学書院 2. 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 老年看護学 青踏社 国民衛生の動向					

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	在宅看護援助論Ⅰ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	田中 千香	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
地域・在宅看護の対象であるその人は、個人として存在するだけでなく、家族や様々なコミュニティの一員であり、地域のシステムの中にある。					
①人口の高齢化の現状と問題、高齢者に関わる保健・医療・福祉政策の概要を説明できる。					
②老年看護の活動の場と高齢者を介護する家族を知り、看護師の役割を説明できる。					
③老年期の人々が生活するなかで体験する倫理問題について考えることができる。					
《事前学習内容》					
学生の身近にある人々の暮らしから看護の学びをはじめ、暮らしの基盤としての地域を理解する。					
《D P との関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を養う。					
DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる					
DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	在宅療養と家族支援 DVD「我が家に訪問看護がやってきた」			講義	教科書 DVD
第2回	社会保障の動向			講義	教科書
第3回	在宅看護の展開 事例 地域生活ケアシステムと生活の場の理解			VTR	
第4回	在宅看護過程の展開方法 <制度の概要としくみ> 事例：療養者と家族へのケア			グループワーク	
第5回					
第6回					
第7回	在宅看護過程の展開 事例等 腹膜透析の療養者へのケア			講義	教科書
第8回					
第9回	対象者（家族も含む）の権利保障			講義	
第10回	在宅看護介入時期別の特徴			講義	
第11回	グループワーク ・訪問看護ステーションをつくろう ・施設と在宅のちがい ・ケアプラン作成			講義・VTR	教科書
第12回					
第13回					
第14回	発表 介護保険制度マネジメント			講義	教科書
第15回	社会資源の活用			講義・演習	教科書
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
1. 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	在宅看護援助論Ⅱ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	西原 昌代	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 地域・在宅看護の対象である個人と家族や様々なコミュニティの中で地域包括ケアシステムを活用し健康増進や継続看護の役割を理解できる。 ①人口の少子・高齢化の現状と保健・医療・福祉政策の概要を説明できる。 ②老年看護の活動の場と高齢者を介護する家族を知り、看護師の役割を説明できる。 ③地域の人々の生活を支援できる看護が実践できる。					
《事前学習内容》 暮らしの基盤としての地域を理解する。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を養う。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	訪問看護の紹介 事例紹介 DVD「我が家に訪問看護がやってきた」			講義	教科書 DVD
第2回	在宅看護の展開 A講義と事例			講義	教科書
第3回	在宅看護の展開 A講義と事例			講義	V T R
第4回 第5回	(移動・移乗・清潔・認知機能・終末期) C.在宅看護論～在宅医療技術			グループワーク 課題提出	教科書
第6回	①褥瘡 ②尿道留置カテーテル ③ストーマ			講義	教科書
第7回 第8回	④経管栄養 ⑤在宅中心静脈栄養法 (HPN)			講義 ポストテスト	教科書
第9回 第10回	⑥NPPV ⑦在宅酸素療法 ⑧在宅人工呼吸法 (HMVと排痰法 ⑨疼痛緩和			講義	教科書
第11回	グループワーク			講義・V T R	教科書
第12回	・ALSで在宅呼吸器治療を受けている療養者 ・終末期で在宅輸液療法を受けている療養者			講義	教科書
第13回	①退院時カンファレンス1.4G ②初回訪問アセスメント			講義	教科書
第14回	演目① 移動の介助 演目② 関節可動域訓練			演習	教科書
第15回	まとめ			講義 ポストテスト	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点(課題、レポート20点分含む)、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	家族看護論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	川口 弥恵子	実務経験と その関連資格	助産師		
《科目全体のねらい・到達目標》 人間生活の基盤としての家族及び家族の人々の関係に関する的確な知識を理解し、家族の危機管理能力の向上や家族ケアの実際の場面での活用方法について学習する。 ①現代家族の多様化、個別化する現象について説明できる。 ④家族看護を支える理論と介入方法が説明できる。 ②家族看護の特徴と理念について説明できる。 ⑤家族看護の展開の方法について説明できる。 ③家族看護の特徴である家族機能、家族の抱える問題について説明できる。 ⑥家族看護学の実践について、事例に基づき必要な看護について説明できる。					
《事前学習内容》 授業時に配布するプリント、教科書の復習					
《D P との関連》 DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護をすることができる。 DP. 3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	家族看護とは何か 家族看護学の発展と家族看護学のニーズ、家族看護学の定義			講義	教科書・参考資料
第 2 回	家族看護のセルフケア機能とは何か			講義	教科書・参考資料
第 3 回	家族看護の対象理解 家族とは、家族の健康、家族構造と機能、わが国の家族の特徴とその課題			講義	教科書・参考資料
第 4 回	家族看護における看護者の役割と援助姿勢			講義	教科書・参考資料
第 5 回	家族発達理論を使って家族を理解する			講義・演習	教科書・参考資料
第 6 回	家族システム理論を使って家族を理解する			講義・演習	教科書・参考資料
第 7 回	家族ストレス対処理論を用いて家族を理解する			講義・演習	教科書・参考資料
第 8 回	事例①：フリードマン家族アセスメントモデルを使って家族をアセスメントする			講義・演習	教科書・参考資料
第 9 回	事例②：家族生活力量モデルを使って家族をアセスメントする			講義・演習	教科書・参考資料
第10回	事例③：カルガリー家族看護モデルを使って家族をアセスメントする			講義・演習	教科書・参考資料
第11回	事例④：家族看護エンパワーメントモデルを使って家族をアセスメントする			講義・演習	教科書・参考資料
第12回	事例⑤：渡辺式アセスメントモデルを使って家族をアセスメントする			講義・演習	教科書・参考資料
第13回	家族に変化をもたらすための介入方法			講義・演習	教科書・参考資料
第14回 第15回	課題事例：看護過程の展開と介入の実際			講義・演習	教科書・参考資料
《成績評価の方法と基準》 終講試験 試験100点（課題、レポート20点分含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	地域在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	地域診断	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	重松 由佳子	実務経験と その関連資格	保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
地域の動向を理解し、地域における看護活動を実践展開するための理論と方法を習得する。また、これからの地域社会における看護のあり方についても考える。（地域の疾病構造と疾病統計から健康レベルをアセスメントする。）					
《事前学習内容》					
教科書を事前に読んでおくこと。					
《D P との関連》					
DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。					
DP. 3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することが できる。					
DP. 5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	対象者の生活の場である地域を理解する意義			講義	教科書
第2回	地域を理解する視点			講義	教科書
第3回	地域で健康保持増進活動を行う社会資源			講義	教科書
第4回	地域で健康保持増進活動を行う専門職種			講義	教科書
第5回	健康保持・増進し、健康障害を予防する地域看護活動 1			講義	教科書
第6回	健康保持・増進し、健康障害を予防する地域看護活動 2			講義	教科書
第7回	地域看護診断の定義・目的			講義	教科書
第8回	地域看護診断に活用できるモデル			講義	教科書
第9回	地域の健康状態の指標			講義	教科書
第10回	地域診断演習			演習	教科書
第11回	地域診断演習			演習	教科書
第12回	地域診断演習			演習	教科書
第13回	地域診断演習			演習	教科書
第14回	地域診断演習(発表)			演習	教科書
第15回	まとめ			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点（課題、レポート30点分含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
地域で健康的な生活を行うためにそのようなことが関係しているのか各自が考えをもち、協力して学びあってください					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度 2					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	成人看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	成人看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	桐原秀和 高口敦義 梅原由美	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開できる総合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》					
《D P との関連》 DP.1 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解 するコミュニケーション能力を養う。 DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断 に基づいた看護を実践することができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	循環器疾患患者の看護			講義	教科書
第2回	循環器疾患患者の看護			講義	教科書
第3回	循環器疾患患者の看護			講義	教科書
第4回	循環器疾患患者の看護：看護過程			講義 グループワーク	教科書
第5回	女性生殖器疾患患者の看護			講義	教科書
第6回	女性生殖器疾患患者の看護			講義	教科書
第7回	女性生殖器疾患患者の看護 放射線の被ばく防止策の実施 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施			講義 演習	教科書
第8回	脳・神経疾患患者の看護			講義	教科書
第9回	脳・神経疾患患者の看護			講義	教科書
第10回	脳・神経疾患患者の看護			講義	教科書
第11回	運動器疾患患者の看護			講義	教科書
第12回	運動器疾患患者の看護			講義	教科書
第13回	運動器疾患患者の看護			講義	教科書
第14回	運動器疾患患者の看護 看護過程			講義 グループワーク	教科書
第15回	運動器疾患患者の看護 看護過程			講義 グループワーク	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点（課題 20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 専門分野Ⅱ 成人看護学【3】 循環器 成人看護学【7】 脳・神経 成人看護学【9】 女性生殖器 成人看護学【10】 運動器					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	老年看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	老年看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	喜多村恭子	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 加齢に伴う機能低下に起因する徴候と健康障害に応じた看護を理解する。 ①高齢者の生活リズムにおいて意義、加齢に伴う変化・変調をとらえ、アセスメントを行うことができる。 ②高齢期において罹患しやすい疾患の看護の要点を説明できる。					
《事前学習内容》 高齢者の健康障害の特徴や治療時の看護を理解できるように教科書を基に事前学習する。					
《DPとの関連》 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	老年看護学 第4章			講義	USB
第2回	老年看護学 第4章			講義	USB
第3回	老年看護学 第4章			講義	USB
第4回	老年看護学 第5章			講義	USB
第5回	老年看護学 第5章			講義	USB
第6回	老年看護学 第5章			講義	USB
第7回	老年看護学 第5章			講義	USB
第8回	老年看護学 第5章			講義	USB
第9回	老年看護学 第6章			講義	USB
第10回	老年看護学 第6章			講義	USB
第11回	老年看護学 第6章			講義	USB
第12回	老年看護学 第6章			講義	USB
第13回	老年看護学 第6章			講義	USB
第14回	老年看護学 病態・疾患論 第3章			講義	USB
第15回	老年看護学 病態・疾患論 第3章			講義	USB
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	老年看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	老年看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	江川 陽子	実務経験と その関連資格	老人看護専門看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康障害をもつ高齢者における看護過程の展開方法を理解する。 ①対象者の健康状態、日常生活への影響を明らかにするために主観的・客観的情報を整理・記載できる。 ②明らかになった複数の課題に対し、生命の危険性、本人の苦痛、健康の影響、生活行動に及ぼす影響から 順位を考えナンバリングできる。					
《事前学習内容》 高齢者の健康障害の特徴や治療時の看護を理解できるように教科書を基に事前学習する。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	認知症			スライド講義	PC
第2回	精神・神経疾患			スライド講義	PC
第3回	循環器系の疾患			スライド講義	PC
第4回	呼吸器系の疾患			スライド講義	PC
第5回	消化器系の疾患			スライド講義	PC
第6回	内分泌・代謝系の疾患、自己免疫疾患、血液疾患			スライド講義	PC
第7回	腎・泌尿器系の疾患			スライド講義	PC
第8回	運動器の疾患、感染症の疾患			スライド講義	PC
第9回	皮膚の疾患、感覚器、歯・口腔の疾患			スライド講義	PC
第10回	高齢者が安心して療養を受けられるための看護			スライド講義	PC
第11回	住み慣れた地域で過ごすための看護			スライド講義	PC
第12回	エンドオブライフケア・看取り			スライド講義	PC
第13回	総括			小テスト	
第14回	看護過程			グループワーク	
第15回	看護過程			グループワーク	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点(課題20点含む)、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 老年看護病態・疾患論 医学書院 老年看護学 青踏社					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	小児看護学援助論Ⅱ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	眞木 めぐみ	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 小児期の成長発達・健康維持から生じる健康問題に対する看護の具体的方法を学び、小児看護の特徴を踏まえた看護過程を展開し、統合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》 発達段階の理解 疾患に関する知識					
《D P との関連》 DP. 1看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP. 2地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うこと。 DP. 4健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 5保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	第1章 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 第7章 障害のある子どもと家族の看護			講義	
第2回	第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護			講義	
第3回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護			講義	
第4回	第4章 子どものアセスメント			講義	
第5回	第5章 症状を示す子どもの看護①			講義	
第6回	第5章 症状を示す子どもの看護①			講義	
第7回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護①			講義	
第8回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護② 遊びによる医療的説明（プレパレーション、ディストラクション）			演習	
第9回	疾患を持った子どもの看護 代謝性疾患、 内分泌疾患、免疫疾患、アレルギー性疾患 リウマチ性疾患、感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液、造血器疾患、悪性新生物、腎・泌尿器および生殖器疾患、神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患			講義	
第10回				講義	
第11回				講義	
第12回				講義	
第13回				講義	
第14回	事例による看護過程の展開			講義・演習 グループワーク	
第15回	事例による看護過程の展開			講義・演習 グループワーク	
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					

《受講上の注意》

一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。

《使用教材（教科書）及び参考図書》

小児看護学概論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学1〕

小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	母性看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	母性看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	村上 文洋	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
①母性各ライフステージのセクシュアリティの発達が説明できる。					
②母性各ライフステージの心理・社会的特徴を述べ各期の健康問題と支援方法を述べることができる。					
③女性生殖器疾患に関して病態・検査・治療予後について学び理解できる。					
④マタニティサイクルの異常と看護について学び、説明できる。					
《事前学習内容》					
・教科書の関連領域・資料は事前に読んでおくこと。					
・母性看護学概論で学んだ内容について復習をしておくこと。					
《D P との関連》					
DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	女性生殖器解剖、月経周期、生殖細胞			講義	
第2回	妊娠と分化			講義	
第3回	診察と検査、主な治療・処置			講義	
第4回	女性生殖器の疾患			講義	
第5回	不妊症			講義	
第6回	悪性疾患			講義	
第7回	性感染症			講義	
第8回	女性生殖器の疾患			講義	
第9回	リプロタクティブヘルスケア			講義	
第10回	妊娠（正常）			講義	
第11回	妊娠・産褥			講義	
第12回	異常妊娠			講義	
第13回	異常妊娠			講義	
第14回	異常妊娠・産褥期疾患			講義	
第15回	産褥期の異常			講義	
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論（医学書院）					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論（医学書院）					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	母性看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名	母性看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	本 多 文	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 妊娠・分娩・産褥時の母子の生理的な変化について理解し、正常経過の観察、全経過を通じての包括的看護について理解する。また、看護過程を展開し、総合的な看護の視点を学ぶ。					
《事前学習内容》 ・母性看護学方法論で学んだ内容については復習しておくこと。					
《D P との関連》 DP. 2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	オリエンテーション、妊産褥婦と新生児の特徴を理解する為の基礎知識			講義	教科書・資料
第2回	妊娠期のアセスメント視点（妊婦・胎児・家族）と看護方針			講義	教科書・資料
第3回	妊娠期の身体的、心理・社会的特性、正常からの逸脱及び家族発達と看護、妊娠期モデル使用（腹囲・子宮底・胎児心音・レオポルド触診）、妊婦体験			講義・演習	教科書・資料 モデル人形
第4回	分娩の3要素と経過、正常からの逸脱と看護			講義	教科書・資料
第5回	胎児発育・新生児のアセスメント視点と看護方針			講義	教科書・資料
第6回	胎児、新生児の生理及び看護			講義	教科書・資料
第7回	産褥期のアセスメント視点（産褥・新生児・家族）と看護方針 産褥期のモデルを使用（産褥期の子宮底の変化、新生児授乳について）			講義・演習	教科書・資料 モデル人形
第8回	産褥期の身体的、心理・社会的変化、家族発達と看護、退院準備			講義	教科書・資料
第9回	産褥期の正常からの逸脱と看護			講義	教科書・資料
第10回	アセスメントする為の根拠となる知識、ウェルネス志向型看護過程			講義	教科書・資料
第11回	看護過程①GW:事例の概要、推論の検討、事例を解釈する為に必要な知識・内容の検討			講義・GW	教科書・資料
第12回	看護過程②GW:事例の解釈、看護問題の抽出、目標の検討			講義・GW	教科書・資料
第13回	看護過程③GW:看護計画の検討、看護計画を実施する為に必要な知識、技術の検討			講義・GW	教科書・資料
第14回 第15回	看護計画に基づいた援助技術の実施/実践の振り返り・看護ケアの振り返り。 母性看護学援助論まとめ			講義・GW 演習	教科書・産褥期 事例・ユニ フォーム
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論（医学書院） 2. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論（医学書院）					

2024 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	精神看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	精神看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	辻克郎 富松健太郎 江口 寛 辻丸 智子 西山幸歩	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 精神障害者の発達の特徴と主な疾患の原因・診断・治療について学ぶ。					
《事前学習内容》 ライフサイクル、成長発達段階					
《D P との関連》 DP. 1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる DP. 1 対象の身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	人間の心のはたらきとパーソナリティ 人間の心の諸活動			講義	教科書
第2回	関係のなかの人間 全体としての家族・人間と集団			講義	教科書
第3回	1. 精神症状論と状態論 様々な精神症状			講義	教科書
第4回	2. 精神障害の診断と分類			講義	教科書
第5回	3. 統合失調症 病因・症状・病型、経過と予後、検査と治療			講義	教科書
第6回	4. 気分感情障害（うつ病） 病因・症状・病型、経過と予後、検査と治療			講義	教科書
第7回	5. 神経症性障害、ストレス関連障害 病因・症状・病型、経過と予後、検査と治療			講義	教科書
第8回	6. パーソナリティ障害 病因・症状・病型、経過と予後、検査と治療			講義	教科書
第9回	7. 器質性精神障害 病因・症状・病型、経過と予後、検査と治療			講義	教科書
第10回	8. 精神作用物質による精神および行動の障害 病因・症状・病型、経過と予後、検査と治療			講義	教科書
第11回	VRによる幻聴体験			講義・V R	教科書
第12回	災害精神医学			講義	教科書
第13回	てんかんについて			講義	教科書
第14回	精神科におけるリハビリテーション			講義	教科書
第15回	まとめ			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	精神看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名	精神看護学援助論Ⅱ	学 期	後 期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	永松 祐二 野母 武	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 精神の健康問題を持つ対象とその家族の理解を深め、必要な援助を学ぶ 精神障害を持つ患者の看護過程を展開し、総合的な看護視点を養う					
《事前学習内容》 ライフサイクル、成長発達段階					
《D P との関連》 DP.1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる DP.1 対象の身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する DP.3 患者の能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い洞察と内省を繰り返し看護を実践する					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	(第8章)ケアの人間関係 ケアの前提を知り、ケアの原則・方法について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第2回	(第8章)ケアの人間関係 対人関係の基本的な考えを理解し、患者-看護師関係における感情体験について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第3回	(第9章)回復を支援する 回復の意味、リカバリーを促す環境・方法としてのグループ、回復のためのプログラムについて学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第4回	(第10章)地域におけるケアと支援 地域における生活支援の方法について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第5回	(第10章)地域におけるケアと支援 地域におけるケアの方法と実際、学校・職場におけるメンタルヘルスと精神看護について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第6回	(第11章)入院治療の意味 精神科を受診するということ、入院中の観察とアセスメント、退院に向けての支援について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第7回	(第12章)身体をケアする 精神科における身体ケア、看護ケアの実際について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第8回	(第12章)身体をケアする 精神科の治療に伴う身体ケア、身体合併症のアセスメント、終末期ケアについて学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第9回	(第13章)安全をまもる リスクマネジメントの考え方と方法を理解し、緊急事態(自殺・暴力・無断離院)の対策について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第10回	(第14章)医療の場におけるメンタルヘルスと看護 リエゾン精神看護とその役割、活動の実際について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第11回	・慢性期にある統合失調症患者の看護展開 長期入院患者の問題点を伝えイメージの上からも患者像が浮かぶようにする。			講義	資料作成
第12回	・看護計画のための情報整理 基本的データ、病前、入院前、現在の患者の状態について把握できるようにする。			講義	資料作成
第13回	・看護計画の実際 これからの患者の可能性について一緒に考え、アセスメントし看護計画案ができるようにする。			講義	資料作成
第14回	・プロセスレコードとは 看護場面の再構成ができるよう学習する。			講義	資料作成
第15回	・プロセスレコードの記述 プロセスレコードの記述方法、自己評価と活用について学習する。			講義	資料作成
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	2 年	授業時間数	10時間 (5回)
科 目 名	クリティカルケア (急性期)	学 期	後期	授業単位数	1 単位 (災害看護を含む)
担 当 教 員	富松 高司	実務経験と その関連資格	集中ケア認定看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康状態の急激な変化（突発的な事故や重篤な疾病発症、病期の活動期、手術直後の急性期）などによって、 クリティカルケアが必要とされる患者および家族の理解を深め、必要な看護実践を習得する。					
《事前学習内容》 解剖生理学、疾病各論、薬理学、患者・家族心理					
《D P との関連》 DP. 2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を養うことができる。 DP. 4 健康段階を理解し、健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	クリティカルな患者の病態の理解と看護 呼吸機能障害、循環機能障害、腎機能障害			講義	講師作成資料
第 2 回	クリティカルな患者の病態の理解と看護 脳神経障害、消化機能障害、栄養代謝障害、多臓器機能障害			講義	講師作成資料
第 3 回	クリティカルケアに看護な看護技術 観察と全身症状のアセスメント、呼吸管理			講義	講師作成資料
第 4 回	クリティカルケアに看護な看護技術 体液・循環管理、栄養管理、鎮痛・鎮静管理			講義	講師作成資料
第 5 回	クリティカルケアに看護な看護技術 危篤状態にある患者・家族へのケア			講義	講師作成資料
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 クリティカルケア看護学 医学書院					

2024 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	3 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	臨床看護の実践	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	前田 優子	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・授業目標》					
臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して、総合的な判断力や対応をする力を養う・看護技術を組み合わせ、複数患者の状態や状況にあった援助が実施できる。					
《事前学習内容》					
基礎看護学、基礎看護学技術					
《D P との関連》					
DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践できる					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	授業のねらい 授業の進め方			講義	資料
第 2 回	臨床判断に必要な知識・技術			講義	資料
第 3 回	事例を基に臨床判断を考える			講義	資料
第 4 回	事例を基に臨床判断を考える（グループディスカッション）			講義	資料
第 5 回	発表			講義・演習	資料
第 6 回	事例を基に臨床判断を考える（消化器がん）			講義	VTR
第 7 回	グループディスカッション			講義	資料
第 8 回	発表			講義	資料
第 9 回	複数受け持ち（多重課題）看護に必要な知識・技術			講義	資料
第10回	複数受け持ち看護 事例学習			講義	資料
第11回	複数受け持ち看護 事例学習（グループディスカッション）			講義	資料
第12回 第13回	複数受け持ち看護の実践			演習	資料
第14回	発表：演習を通しての学びの共有			講義・演習	資料
第15回	倫理的思考とリフレクション まとめ			講義	資料
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点（演習参加状況含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 解剖生理学					
メジカルフレンド社 はじめてのフィジカルアセスメント					

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
看護管理と研究	3	1（30）	統合分野	雪野美和 大町福美

【授業の目的・到達目標】

- ・臨地実習で学んだ看護体験を客観的に振り返り、看護理論・文献を活用しながら看護体験の効果と課題を明確にしてケーススタディとしてまとめ、発表ができる。
- ・看護管理の方法について理解できる。

【授業計画】

回数	講義内容	方法
第1回	看護とマネジメント	講義
第2回	看護とマネジメント	講義
第3回	看護ケアのマネジメント	講義
第4回	看護サービスのマネジメント	講義
第5回	キャリアマネジメント・諸制度について	講義
第6回	看護研究で学ぶこと 研究って何？ ケーススタディって何？ 看護過程と看護実践 看護理論の紹介	講義
第7回	ケーススタディを完成させるために 事例と理論の効果的な使い方 企画書の作成の仕方と実際、文章のまとめ方	講義
第8回	文章のまとめ方 研究時に使う文献の重要性、文献検索について、研究の倫理	講義
第9回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイント作成について	講義
第10回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイント作成について	講義
第11回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成	個別指導
第12回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成	個別指導
第13回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成	個別指導
第14回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成	個別指導
第15回	研究について総まとめ、学会参加	学会参加

【使用テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践Ⅰ 看護管理 （医学書院）
はじめて学ぶケーススタディ第2版 系統看護学講座別巻看護研究

【評価方法】

看護管理：学科試験、看護研究：学科試験、ケーススタディ作成、発表で評価